

太宰府市公文書館開館 10 周年記念プレ企画 パネル展

“まち”の記憶、“まち”の記録

— 公文書館資料展 —



■ 展示日程・会場

- 日時：① 令和5年10月3日(火)～11月30日(木)
② 令和5年12月2日(土)～12月24日(日)
③ 令和6年1月10日(水)～1月26日(金)
④ 令和6年1月30日(火)～3月4日(月)
⑤ 令和6年3月5日(火)～3月22日(金)

- 会場：① 上下水道事業センター1階ビジターフロア (市役所開庁時)
② 太宰府館2階ギャラリー (月曜日休館、10時～18時)
③ 太宰府市役所1階市民ギャラリー (市役所開庁時)
④ 上下水道事業センター1階ビジターフロア (市役所開庁時)
⑤ 太宰府市文化ふれあい館エントランス (月曜日休館、9時～17時)

※どちらの会場も、観覧無料です。

※会場は変更になる場合があります。最新の情報は公文書館ホームページをご覧ください。

有吉家文書

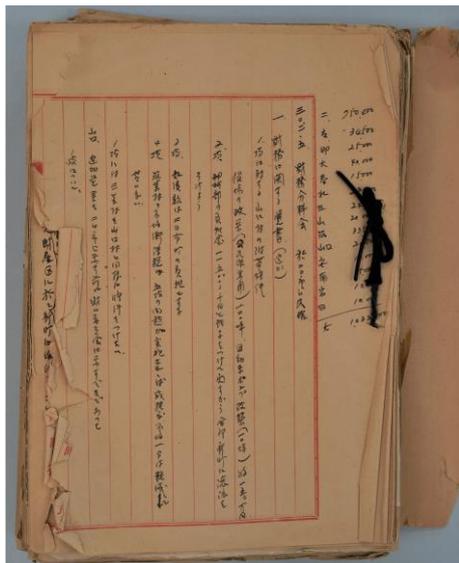
※人名の敬称は省略しています(以下同)

太宰府市初代市長である有吉林之助^{ありよしりんのすけ}から寄贈された約 1200 点の資料群で、公文書館(当時は市史資料室)が寄贈を受けた記念すべき第 1 号。主に明治 30 年代から昭和 30 年代にかけての資料が残されています。

林之助は戦後間もない頃から太宰府町(当時)の町政に深く関わり、祖父林太郎^{りんたろう}も明治期に町会議員等を務めたため、行政に関する資料が豊富に含まれています。林之助は昭和 54(1979)年 4 月に町長に就任し、同 57(1982)年 4 月の市制施行により初代市長となり、新市庁舎や文化・教育施設の建設等を推進しました。また林太郎は地元での起業に多くの貢献があり、企業への出資関係資料が見られます。



市長時代の有吉林之助



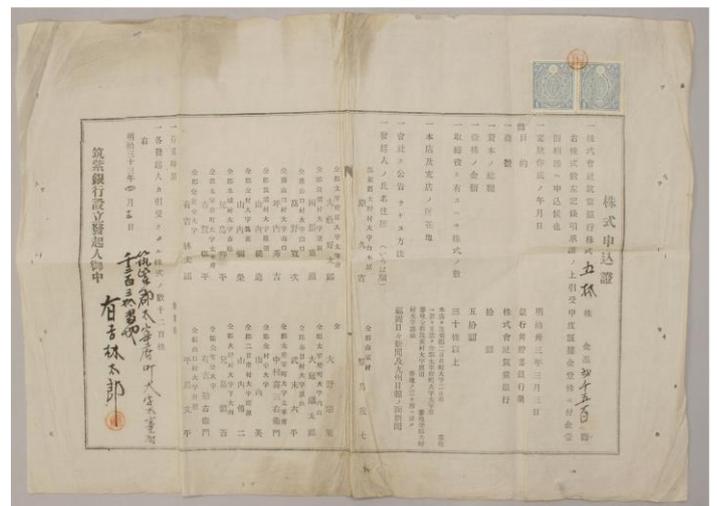
役場関係綴(部分)

やくばかんけいつづり 【役場関係綴】

有吉林之助の町議会議員時代のもので、筑紫郡^{ちくしぐん}きゅうみかさぶちょうそんがつっぺいきょうぎかい旧御笠部町村合併協議会の財務委員を兼任していた頃の、昭和 30(1955)年の町村合併に関する行政文書の綴り。様々な形の用紙に印刷・記入された文書を綴ったもの。『太宰府市史 近現代資料編』において一部翻刻され収録されています。

ちくしぎんこうかぶしきもうしこみしよう 【筑紫銀行株式申込証】

有吉林之助の祖父林太郎が筑紫銀行の設立に関わっていたことを示す資料。明治 33(1900)年、林太郎は発起人の中に名を連ねており、株式 50 株を引き受け、代金 2,500 円を支払いました。



筑紫銀行株式申込証

※『年報太宰府学』第 3 号に目録を掲載しています。

高原(日)家文書

近代の日蓮宗僧侶・高鍋日統（1879-1953）関連の資料群。日統は、中国大陸に渡って布教を行った日蓮の本弟子・日持への憧れを抱き、旧水城村の大陸山水城院（1924年建立）を拠点として、大アジア主義思想の普及活動に情熱を注ぎ、昭和14（1939）年には宗門より「蒙古開教監督」に任命され、モンゴルで精力的に布教活動を行いました。

本資料群には、日統が中国で収集した宣伝ビラやポスター、日統の思想や宗教観に関する資料、日統関係の写真群が含まれます。写真群の中には、後藤新平や齋藤実ら近代史上の著名人が水城を訪れた際の写真もあります。近代太宰府の地域史のみならず、近代日本の政治思想史を考えるうえでも重要な資料群といえるでしょう。



高鍋日統肖像



水城院を訪れた齋藤実朝鮮総督
（前列左から高鍋日統、齋藤実）

【齋藤実との記念撮影写真】

大正14年（1925）12月、当時の朝鮮総督・齋藤実が水城院を来訪し、白村江の戦いの戦死者の回向供養に臨席しました。翌年には、齋藤から朝鮮梵鐘を受贈しています。朝鮮総督の来訪は、水城院建立の思想を表象するかのよう出来事でした。

【蒙古軍供養塔と徳王参詣】

日統は、昭和2年（1927）、志賀島の蒙古軍供養塔の建立にあたり中心的役割を果たし、モンゴル王族カラチン王の除幕式招待を計画しますが、失敗に終わります。しかし、昭和13年（1938）、蒙古連盟自治政府主席・徳王の供養塔参詣が実現しました。モンゴルの最高指導者による供養塔参詣実現の功績により、日統は「蒙古開教監督」となりました。



蒙古軍供養塔に参詣した徳王
（左は高鍋日統）

※『年報太宰府学』第5号に目録を掲載しています。

中川家文書

旧御笠郡の医家・中川家に伝わる資料群です。幕末の当主中川昌沢なかがわしょうたく（1797-1870）は、儒学かめい うんを亀井雲来ら い なんめい（南冥の息子）、江上芥洲え がみれいしゅうに学び、医学かみむらしょうを上村尚庵あんに学ぶなど、亀井門下と関わりが深い人物です。27歳の時、京都に遊学こいほうし古医方こいほう（漢方医学の一種）を修め、帰ってからは宰府村の「掛医かかりい」や太宰府天満宮の種痘の担当医を務めるなど地域医療に尽力しました。中川家文書には、昌沢が修業先の息子啓甫けいぽに送った書状、医学専門書、診療日誌、漢籍、漢詩・発句の自筆稿本などが含まれます。福岡医学校の講義録や病院関係資料など近代の資料も豊富で、近世から近代にかけての地域医療や医師制度の歴史を考えるうえで、重要な資料群といえるでしょう。



中川昌沢肖像（個人蔵）

【医窓筆談】

中川昌沢筆。嘉永元（1848）年から安政2（1855）年までの診療記録ほうそう。疱疹（天然痘）や婦人病、傷寒しょうかん（高熱を伴う疾患）など、11件の症例が記載されています。江戸時代の在村医による診療記録は全国的に見ても数が少なく、当時の医療内容を知るうえで貴重な資料といえます。

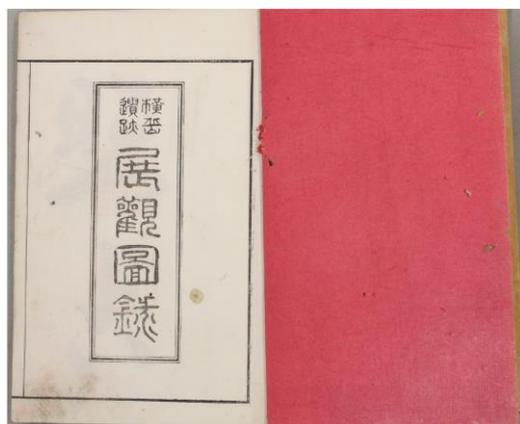


表紙と本文（部分）

【横岳遺跡展観図録】

明治29（1896）年序。同年12月に開催された、横岳崇福寺旧跡地の寺領復帰を記念して開かれた古書画展観会かやましゅうざんの図録よしつぐ。萱島秀山の題字・画、吉嗣いざん、拝山の書・詩文、若松の南画家木村耕巖こうがん、拝山門人ふじせ藤瀬冠郎の挿画など、見所の多い1冊です。図録を保存していた中川家当主梶太郎げい（啓甫の息子）が横岳を詠んだ漢詩も掲載されています。

※『年報太宰府学』第9号に目録を掲載しています。



扉題（題字は萱島秀山）

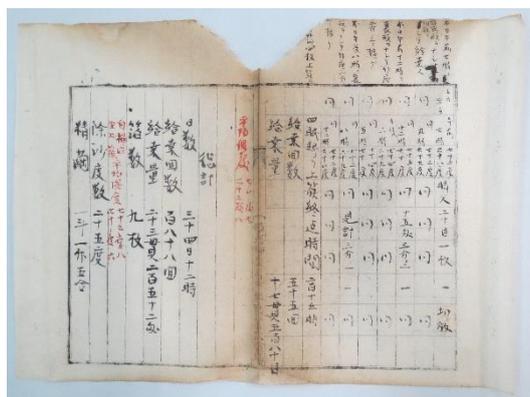
永田家文書

約 300 点の資料群は、主に、明治 20 年代後半から同 40(1907)年の間に旧水城村の村長を務めた、^{ながた ごんべい}永田権平に関する文書から成っています。

彼は、郡会議員や小学校の建設委員なども歴任し、地域の産業や教育の発展に力を尽くしました。資料群には農業や養蚕^{ようさん}、畜産に関するものが含まれ、農会の前身といえる御笠郡農業組合(明治 20 年結成)や農事改良に関する文書、養蚕日誌、牛馬育成奨励関係の文書などが残されています。教育に関しては、尋常^{じんじょう}小学校・高等小学校の建築など地域の学校設立に関する文書があり、また、郡会議員を務めた明治 40 年から大正(1915)年あたりの郡参事会議案が散見されるのもこの資料群の特徴です。



永田権平翁民功碑



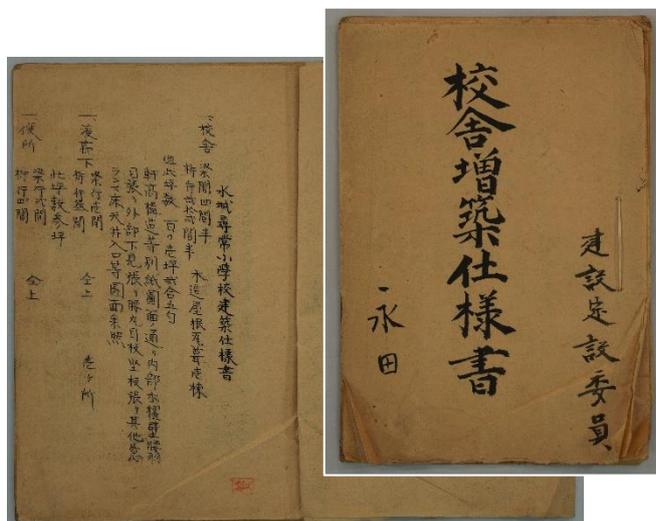
日誌の一部(綴外れ)

【養蚕日誌】

明治 20 年代。那珂御笠^{な か み かきむしろだ}席田郡勸業試験場罫紙使用。1 日間に 5~8 回、給桑時間^{きゅうそう}・乾湿度・晴雨等の記録を付け、その日に行った「裏取」(蚕^{うらどり}の糞や桑の食べ残しを取り除く作業)の実施等を欄外に書き込んでいます。「日誌ニハ違字ハ無用」と注意書きがあるページもあり、記載には厳密さが求められていたことが分かります。

【校舎増築仕様書】

水城尋常小学校が明治 42 年に新校舎を建てた時のものと思われます。この仕様書では、建坪 101 坪の、周囲をコンクリートで固めた木造瓦葺屋根の建物の建築が想定されています。表紙には「建設定(常カ)設委員 永田」とあり、当時権平が務めた役職の内の一つだった、と考えられます。



表紙と本文(部分)

※『年報太宰府学』第 4 号に目録を掲載しています。

吉嗣家資料

町絵師の家系・吉嗣家に伝来した資料群です。

吉嗣家は、代々太宰府天満宮の神官であったとい
い、絵師としては、幕末から明治前半にかけて創作
活動を行った吉嗣梅仙よしつぐばいせんを初代とし、はいざん 拝山、こざん 鼓山と三
代にわたって続けました。二代目の吉嗣拝山は、事
故で右手を失い、以後左手のみで創作活動を行って、
日本南画界の中心的な人物として活躍しました。その
息男の鼓山は、父に師事して修行を積み、太宰府天満
宮を中心に多くの作品を遺しています。二代目拝山に
関する資料では、明治初期の官吏時代のもの、その後
における詩・書・画の創作活動に関わるもの、また大
正4（1915）年の拝山死去に関するものなどが含まれ
ています。

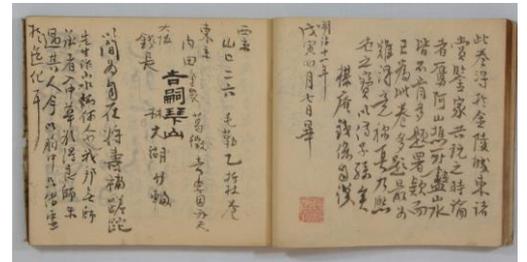


吉嗣拝山肖像（個人蔵）

【筆談録】

明治11（1878）年、しん 拝山は清国に渡り、名所・旧跡を訪ね、また文人墨客と交流する
などしています。そのあり

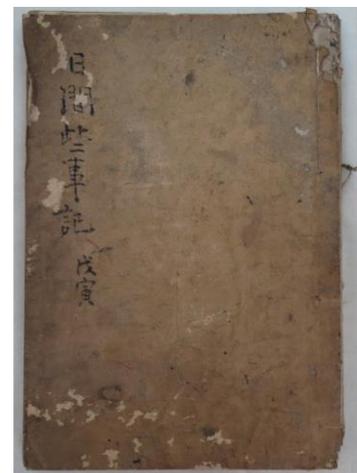
さまを書き留めたものが
『筆舌簿』『ひつぜつぼ 以筆換談』
など4冊の「筆談録」とし
て遺っています。それらか
らは、筆談という手法を使
って、清国人と交流する拝
山の姿がありありと浮かび上がってきます。



筆舌簿（表紙と本文（部分））

【にっかんさじき 日間些事記】

「筆談録」に関連して、その年の日記も遺っていました。
『日間些事記』と題されたその日記には2月から7月まで
が記されており、おとな 拝山の清国渡航の全期間を含んでいま
す。内容をみると、「某を訪う。数刻筆談す。」といった記
述もみえ、「筆談録」と対照することによって、清国渡航の
様子をより明確にできるという点で貴重な資料です



※『年報太宰府学』第10号に目録（第1次調査分）を掲載しています。

さまざまな地域資料

公文書館所蔵の地域資料の一部です。公文書館では資料1点ごとに内容や形状を記録し、目録を作成します。調査・整理が終わった資料は、適切な処置を行った上で収蔵庫で大切に保存します。資料目録は、公文書館閲覧スペースに常備している他、ホームページでも公開しています。

城戸家資料

書家で教育者の城戸筑山(1918-2009)関連の資料。昭和12(1937)年～現代。筑山は戦前に水城尋常高等小学校の教員となり、戦後には中学校・高等学校の教員を歴任。水城小学校の「時の記念日」行事に関する資料・写真あり。

高原(熊)家文書

旧国分村の地主高原家に伝来した資料群。主に幕末～明治初期。明治21(1888)年の土地調査の台帳「総丈量野取図」や、大正14(1915)年に警視庁が発行した「大正大震災誌」など。

筑紫農協文書

筑紫農業協同組合太宰府中央支店より寄贈された、明治30年代の産業振興計画書、「太宰府町是」1点。同36(1903)年の第5回内国勸業博覧会に向けて作成。

中嶋家資料

市内で医院を営む中嶋家に残る、中嶋清博に関する資料群。明治25(1892)年～平成。清博は軍医を務めた後、戦後は自院での診療に加え、高齢者福祉施設や小学校等の嘱託医などを担当。

※『太宰府市公文書館紀要一年報太宰府学一』第12号に目録を掲載。

古城戸茂八郎関係資料

旧太宰府町出身の軍人、古城戸茂八郎(1900-1939)に関する資料群。大正期～昭和40年代。軍隊手帳や戦地から家族に宛てた手紙など、茂八郎の従軍歴を伝える資料や日記、趣味の刀剣に関する資料ほか。

※『太宰府市公文書館紀要一年報太宰府学一』第13号に目録を掲載。

太宰府市公文書館Q & A

Q. 太宰府公文書館はいつできたのですか？

A. 平成 26 年(2014) 4 月です。令和 6 年 4 月で満 10 歳になります！

Q. 太宰府公文書館はどんな仕事をしているのですか？

A. 公文書館の仕事はおもに「文書資料部門」と「太宰府学研究センター部門」に分かれます。それぞれ市役所で作られる行政文書(＝公文書)や、地域に残る古文書の整理、保存、調査・研究を行っています。

Q. 公文書館には誰が行ってもいいのですか？

A. もちろんです。資料の閲覧もできますし、太宰府の歴史や文化についての疑問・質問にもできる限りお応えしていますので、気軽にご来館ください！



新元号「令和」の出典『万葉集』所収の
“梅花の宴”について、『太宰府市史』
が詳しく解説しています!!

◎「梅花の宴」を詳しく知りたい場合は
『太宰府市史 通史編 I』

◎「梅花の宴」の原文および注釈を調べたい
場合は『太宰府市史 古代資料編』

◎『万葉集』の中で、大宰府で詠まれた歌を
調べたい場合は『太宰府市史 文芸資料編』

販売価格：1 冊 5, 0 0 0 円

(郵送の場合は送料実費が別に必要です)

問い合わせ：太宰府市公文書館



『太宰府市史』は、ふるさと納税の返礼品にもなっています。

この機会にぜひ、ご検討ください!!

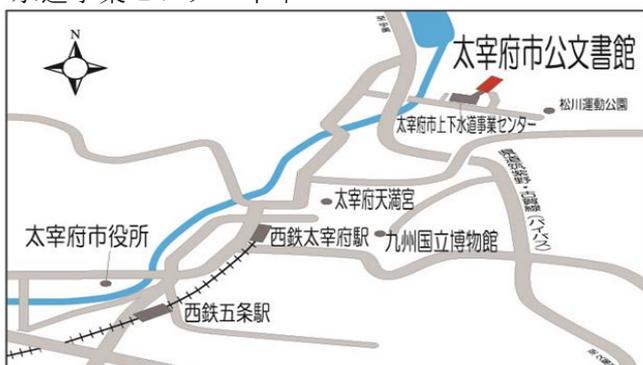
154,000 円の寄附金額で全巻(13 巻 14 冊)

33,000 円の寄附金額で「令和セット」

(通史編 I・古代資料編・文芸資料編)

公文書館へお越しになるなら～アクセス・ご利用案内～

公共交通機関ご利用の場合は、コミュニティバス「まほろば号」(北谷回り)にご乗車ください。西鉄五条駅 or 西鉄太宰府駅(太宰府線)⇒上下水道事業センター下車



閲覧時間 午前 9 時～午後 4 時 30 分
(閲覧のための入館は午後 4 時まで)

閉館日 毎週土曜日・日曜日、祝日
年末年始(12 月 29 日～1 月 3 日)

太宰府市公文書館通信 Vol.7

編集:太宰府市公文書館

〒818-0110

福岡県太宰府市御笠五丁目 3 番 1 号

電話:(921)2322 (直通、FAX 兼用)

E-mail:kobunshokan@city.dazaifu.lg.jp

発行:太宰府市

発行日:令和 5 年 10 月 1 日